

きらめく若い力

大学とともに つくるまち



市内にある唯一の大学。北海道教育大学岩見沢校は、どんな学生が通い、どんな活動をしているのか、皆さん知っていますか。

市は、平成16年に大学と相互協力協定を結び、教育、芸術、文化、スポーツの分野で協力し、まちづくりにおけるかけがえのないパートナーとして共に歩んできました。

今月は、地域で活躍する北海道教育大学岩見沢校の学生とその活動にスポットを当てます。

問合先 企画室 ☎35・4834

市職員が出演して
説明します
10月11日(金)
午後5時40分

地域で輝く教育大生

これまでの卒業生は約1万3千500人で、現在760人の学生が岩見沢で学び、さまざまな分野で活躍しています。

今回4人の学生に、日々の学びや活動に関して話を聞きました。



芸術・スポーツビジネス専攻
ヘルスケア・スポーツマネジ
メント研究室 4年
あべはやく
阿部隼さん

駅前やまちなかをはじめ岩見沢のまちを元気づけたいです
`ねぶた祭。が岩見沢に来てもらうきっかけの一つになれば嬉しいです

【岩見沢校を選んだ理由と印象】

もともと経営やマネジメントに興味がありました。コロナ禍で勉強への意欲が落ち込んでいた時に、芸術・スポーツビジネス専攻があることを知り「ここなら興味のあることの勉強ができるかもしれない」と思い入学しました。授業はとても面白く、イベント企画を考えるなど実践的なことも学べる機会が多いです。現実的に物事を考える力が身に付いていると実感しています。

音楽文化専攻
音楽第1研究室 4年
ながくらしゅん
長倉駿さん



岩見沢は他のまちと空気が違います
自然が豊かで、芸術に必要な感性や情操を育むのに適した環境ですね

【大学で学んでいること】

音楽と教育の二つの分野を学んでいます。オペラは、作品の背景や作曲者の生涯を学ぶことで人間性を高めることができます。また教育では、人に教えるスキルを学ぶことが重要です。両方を学ぶことで、音楽家としても人としても成長できると感じています。

【挑戦したいこと】

入学してすっかりオペラに魅了されてしまい、卒業後は音楽家としての道に進みたいと考えています。1月には『ドン・ジョヴァンニ』のカバリーキャスト公演が控えており、演奏する機会も多くいただいています。



スポーツ文化専攻
スポーツ運動学研究室 4年
にひらみく
仁平美来さん



岩見沢はのどかで、まち自体が緑にあふれていて、まちの中でも自然を感じることができる印象があります

【岩見沢校を選んだ理由】

カーリングを続けながら、競技に必要なスポーツに関する知識などを学びたいと考えていました。実際に入学して、競技にプラスになるような知識はもちろん、他競技を専門とする友人と関わることで、自分の競技との違いが分かるなど、とても良い刺激になっていると感じています。

【取り組んでいること、挑戦したいこと】

スポーツ運動学研究室に所属し、スポーツ運動

【取り組んでいること】

あそびプロジェクトで、板に足を固定せずスノーボードのように滑る「雪板」の体験会をする予定です。
学外の活動では、岩見沢の駅前やまちなかを元気にしたいと思い、ねぶた祭の実行委員会に参加しています。今年は実行委員長を務め、右も左も分からないながらも、他のメンバーと協力しながら進めることでやりがいを感じました。お祭りが終わり少し落ち着きましたが、卒業後もねぶた祭や岩見沢のまちを盛り上げていくことに関わっていきたいです。



あそびプロジェクト vol.16

音楽・美術・スポーツの原点であるあそびがテーマの、大学と地域が一体となったプロジェクトです。詳しくは、あそびプロジェクトホームページをご覧ください。



日時 10月12日(土)
午前10時～午後4時30分
場所 北海道教育大学岩見沢校(緑が丘2)
問合先 北海道教育大学岩見沢校広報・連携推進グループ(緑が丘2) ☎32-0310

学を学んでいます。スポーツ運動学は数値などでは表すことができない運動の「感覚」に特化した学問で、私の専門競技であるカーリングに生かせると思います。
また、授業の中で初心者にも運動指導を行うなど、個人に合った指導方法なども学びました。
現在は北海道銀行カーリング部に所属し、2025年の日本選手権優勝のために練習やトレーニングに励んでいます。カーリング競技でのオリンピック出場を目指し、常に新しいことに挑戦していきたいと考えています。



美術文化専攻
アートマネジメント美術研究室 3年
わだあすか
和田明日香さん



岩見沢の冬は朝も夕方も空気が澄んでいて、まるで朝が2回くるみたいです
雪と建物から漏れるまちの灯りがとてもきれいで気に入ります

【岩見沢校を選んだ理由】

小・中学校、高校と進学するにつれ、美術が主

市は今後も、北海道教育大学岩見沢校との連携をさらに強め、学生の活躍の場を広げること、市民の皆さんとの交流機会を創出していくとともに、芸術文化・スポーツのまちとしての魅力を高めていきます。

例えば、こんな連携事業を行っています

北海道教育大学岩見沢校 BOX (通称：i-BOX) の設置
 学生の活動発信や学生と地域をつなげる拠点です
 場所 有明町南1(有明交流プラザ内)



市庁舎でコンサートを開催
 市役所庁舎を会場にコンサートを開催。市議会との共催で議場を会場にするなど庁舎の新たな活用に取り組んでいます



岩見沢ビジネスチャレンジプロジェクト (イワBIZ) の実施
 事業を自ら起こすことの魅力や意義を伝え、創業への機運を高めるため、高等学校や他の大学とも連携し、講義やワークショップを開催しています



公衆無線 LAN のステッカーデザイン制作
 市内の公共施設で利用できる公衆無線 LAN のステッカーデザイン案を美術文化専攻の学生4人が作成し、市民投票でデザインを決定しました



はじめ、観る、聴く、動くをテーマに市内各所でさまざまなイベントが行われました。

市と大学は協力しながら、さまざまな事業を行っています。
 昨年は、市と大学が共に周年の年を迎えたことを記念して、いわみざわ芸術文化・スポーツの祭典を開催しました。いわみざわ絵画大賞展をはじめ、観る、聴く、動くをテーマに市内各所でさまざまなイベントが行われました。

市と大学の連携

来年には、フアフロツキーズは淡雪羹という展示会を開催予定なので、たくさんの人に見てもらえたら嬉しいです。
 制作メインの研究室ではないので、作品を作る機会が少ないのもつたいないと思いい、i-BOXで個展を開催しました。想像以上に反響があり、ありがたいことに作品の販売依頼もありました。今は自分の作品を販売して使ってもらおうということに挑戦中です。



【個展の反響】
 「学校教育とは違うところで何ができるのか」を考えはじめ、美術館で行われる教育活動に興味を持ちました。その活動を通じて、年齢問わず美術を楽しむことができ、美術の授業が苦手な子どもでも、美術館は好きと感じてもらえるような居場所をつくれたらと思います。

学生と一緒に楽しむ いわみざわアートアカデミーの取り組み

【新しい体験を】

昨年度、はじめての試みとして、北海道教育大学岩見沢校を会場に講座と校内ツアーを企画しました。
 受講生が制作した作品を鑑賞し、どのような考えや思いで創作したのかや他の受講生の作品に対する感想などを発表し合ったほか、構内にある森の岩ギャラリーで、教授や学生の解説を聞きながら作品を鑑賞しました。
 また、学生の案内で大学校舎を巡り、普段はあまり目にすることがない、音楽・美術・スポーツに特化した独自の設備や講義室、校内のさまざまな場所で学生が活動する様子を興味深く見学していました。
 さらに会場に来ることが難しい方へ学びの機会を届けるため、岩見沢高等養護学校で出前講座を実施しました。
 大学生から教わるという、普段の授業と異なる体験は良い刺激となったようで、大胆な発想や個性的な色使いの作品が多く生まれました。



受講生から「今度は教える側にチャレンジしてみたい」という声が出てきたり、持ち帰った体験を友人などに伝えるといった学びの循環が見られるようになったり、いわみざわアートアカデミーの取り組みは新たな広がりを見せています。
 また、講師として参加した学生も福祉への関心が高まり、就職先として障がい福祉事業所を選択する人も出てきました。
 この取り組みによる芸術を通じたつながりが、障がいへの理解促進と障がいのある方の学びの場づくりにつながっています。

これまでの活動の詳細は、市ホームページやYouTubeに掲載しています

市ホームページ

ID: 8078

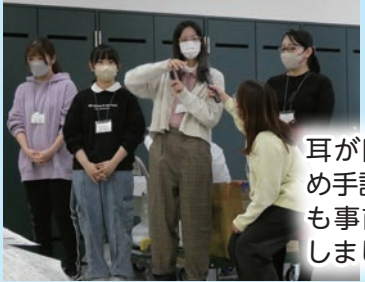
YouTube

市は、障がいのある方と北海道教育大学岩見沢校の教授や学生が、一緒に芸術の鑑賞や創作などを学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を令和3年度から開催しています。
 毎年幅広い年齢の方、身体・知的・精神などさまざまな障がいのある方が、ペンやパステル、アクリル絵の具など、いろいろな画材に触れる創作体験がメインの講座に参加しています。
【カリキュラム】
 ● 10月 創作体験、創作学習、芸術鑑賞学習
 ● 11月28日(木)～12月4日(水) 受講生作品展覧会(約150作品)
 場所 森の岩ギャラリー(緑が丘1 北海道教育大学岩見沢校構内)

【芸術を楽しむ場をつくる】

受講生が自由に芸術に触れる場をつくることを目標に、講座ごとにテーマを設定し、受講生に毎回新しい発見があるように工夫しています。昨年度は、サインペンやパステル、絵の具など多様な画材の紹介と技法に関する講義や創作活動に加え、プラスチック板を使ったキーホルダーの制作を行いました。
 また、受講生に分かりやすいよう、説明には写真やイラストを活用した資料を用意しました。
 ペインティングナイフなどの専門道具の使い方やプラスチック板での制作は、各テーブルに学生がついて実演するなど、受講生に寄り添いながら、共に作品制作を楽しんでいます。

アートマネジメント美術研究室の学生が、芸術やイベントの企画運営に関する知識を生かし、講座の企画や当日の講師、展覧会の運営を行っています。
 学生は、障がいのある方への理解を深めるため、障がい福祉事業所で働く支援員から障がいのある方との接し方、手話通訳者から手話を学ぶなど、受講生に芸術を楽しんでもらうためにさまざまな準備をしています。
 これまでに得た知識や経験は、研究室の先輩から後輩に引き継がれ、その積み重ねにより、障がいのある・なしにかかわらず、誰でも自由に楽しめるものに、年々進化しています。



耳が聞こえにくい方に対応するため手話通訳者を配置したほか、学生も事前に勉強した手話で自己紹介しました